

令和4年度の橋梁課の広報活動を報告いたします

1. イケフェス大阪に参加しました

令和4年10月26日に「生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪(通称：イケフェス大阪)」へ参加しました。イケフェス大阪は、毎年秋に大阪の魅力的な建築を一斉に無料公開する日本最大級の建築イベントで、橋梁課も令和元年度より参加しております。令和4年度は中之島周辺に架かる橋を歩いてめぐり、午前、午後の2回に分けて数多くの方が参加されました。

橋梁課の若手職員による橋梁の説明が行われ、この日に向けて大阪の橋梁の歴史について猛勉強いたしました。参加された方々には、何気なく渡っている橋にそれぞれ歴史や特徴があることを知り、橋への興味・関心を深めていただけたかと思います。橋梁ツアーの様子は橋梁通信にも掲載されました。

今年のイケフェス大阪は、10月28・29日をメイン期間に開催予定で、橋梁課も参加します。ぜひ、ご応募ください。

【生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 HP : リンク先 <https://ikenchiku.jp/ikefes/>】



▲橋梁通信にて掲載された記事



▲イケフェス大阪のようす

2. 市民セミナーを開催しました

令和4年11月7日に難波市民学習センターと協働で、ネットワーク型市民セミナー「なにわ八百八橋物語～橋に見る大阪の再発見～」を開催しました。このネットワーク型市民セミナーは毎年開催しており、当日は午前に講座・パネル展、午後に現地見学を行うとともに、10月28日～11月7日の期間でパネル展を行いました。講座では大阪市内の橋の歴史や役割、構造、現在の橋梁事業等について説明し、現地見学では中之島周辺に架かる橋（淀屋橋～天満橋）を歩いて巡り、それぞれの橋の歴史や特徴について説明いたしました。



▲講座のようす



▲現地見学のようす

3. 西九条小学校で安治川トンネルの紹介をしました

令和4年11月16日西九条小学校で、安治川トンネルの紹介とインタビューを行いました。安治川トンネルとは此花区と西区を安治川の下でつなぐトンネルのことで、1944年完成以来、80年近くにわたって橋梁課で管理をしてきました。現在は歩行者・自転車が24時間利用可能ですが、過去には車の利用も可能でした。

昨年度西九条小学校のみなさんは、一年を通じて安治川トンネルの歴史学習に取り組んでおり、その一環で生まれた疑問に答えるため、出前講座を行いました。

こどもたちは施設紹介を真剣に聞いて、インタビュー時にはたくさん挙手して大盛り上がりとなりました。また出前講座後に、「現在使われていない安治川トンネル車道部の使い方」について、こどもたちから、たくさんのアイデアをいただきました。そのアイデアのうち一部をご紹介します。



▲安治川トンネルタワー部（此花区側）



▲出前講座のようす



▲安治川トンネル内部



▲車道部の使い方についてのこどもたちのアイデア



▲安治川隧道新聞

4. 十三大橋と新淀川大橋が都市景観資源に登録されました

令和5年3月1日に十三大橋と新淀川大橋が都市景観資源に登録されました。都市景観資源とは、地域の方々に親しまれ、かつ地域の景観を特徴づける重要な役割を担っている建築物等を登録しており、現在市内で423件（令和5年3月1日時点）が登録されています。

今回登録にあたっては、十三大橋の特徴的な5連アーチ、新淀川大橋の歴史的背景や中央部の鉄道との独特な景観などが評価され登録にいたりしました。



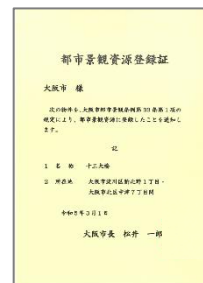
▲十三大橋



▲新淀川大橋

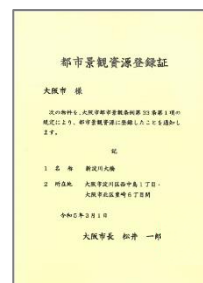
十三大橋 講評〔大阪市都市景観委員会〕

5連アーチが特徴的でかつ印象的な90年を超える歴史を持つ橋であり、隣接する新淀川橋梁とともに良好な都市景観を形成している。また、通過する列車と上空を走る航空機を同時に視認できる場所があることも地域独特の良好な都市景観を形成していると評価できる。



新淀川大橋 講評〔大阪市都市景観委員会〕

シンプルな形状の用・強・美を備えた道路部（新御堂筋）がランガー桁アーチ形式の鉄道部（大阪メトロ御堂筋線）をはさんだ形状で、鉄道と車道が並走しており、独特な景観を形成している。鉄道・道路共に大動脈として機能している一方、橋上から干潟も見ることができるなど、地域にとって欠かせない役割を果たしている。



2橋の詳細い内容については以下のリンクでもご確認いただけます。

URL : <https://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000348721.html>

次号掲載予定：令和5年9月（橋洗い、中之島周辺橋梁の紹介など）